

第 3 回 敦賀市民間最終処分場環境保全対策協議会資料

平成 17 年 2 月 13 日

目 次

1.地質条件の検討	1-1
1.1 JR北陸トンネル	1-1
1.2 処分場周辺の地質・地下水分布	1-2
1.3 処分場からの漏水経路	1-5
2.今後の調査方針について	2-1
2.1 今後の調査方針	2-1
2.2 地形測量	2-2
2.3 高密度電気探査	2-3
2.4 弾性波探査	2-4
2.5 ボーリング調査	2-5
2.6 地下水流動シミュレーション	2-7
3.対策工基本方針について	3-1
3.1 支障除去対策方針	3-1
3.2 支障除去対策案	3-2

1. 地質条件の検討

検討項目	要 点	備 考
1.1 JR北陸トンネル	<p>本調査では、民間最終処分場対策工検討の基本条件を整理するために、JR 北陸トンネルの測量結果 (JR 西日本 C 実施 : H17.1) を調査図面に反映させた (図-1.1.1)。また、既存資料 (北陸ずい道工事誌) をもとに、トンネル沿いの地質分布を整理した (図-1.2.2)。以下に、トンネル沿いの地質状況を述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • JR北陸トンネルは、処分場の南東部を通過する。距離票は51k300~51k500、標高はEL.44.89~47.14mである。 • 北陸トンネル掘削時の記録※からは、処分場周辺区間の地質は粘板岩 (本調査では頁岩として区分) を主体とし、互層状ないしは粘板岩質の砂岩が分布することが確認され、本調査で実施したボーリング調査 (Sb-1, Sb-2) の結果と概ね一致する。 • トンネル掘削時の湧水量は、処分場が通過する区間付近で特に顕著な変化は確認されていない。 	<p>図-1.2.1 JR北陸トンネル位置図</p> <p>図-1.2.2 JR北陸トンネル沿い地質断面図 図および湧水量変化図</p> <p>〔出典〕 日本国有鉄道岐阜工務局 (1963) 北陸ずい道工事誌</p> <p>トンネル湧水量算出の概要は以下のとおり。 第1の方法：流域面積、流路長さを用いた水文学的考察 第2の方法：透水係数を用いた水理学的考察 第3の方法：地下水位と影響範囲、岩盤の透水等を用いた手法 第4の方法：流出範囲に地質構造、地形条件を適用させた手法</p>

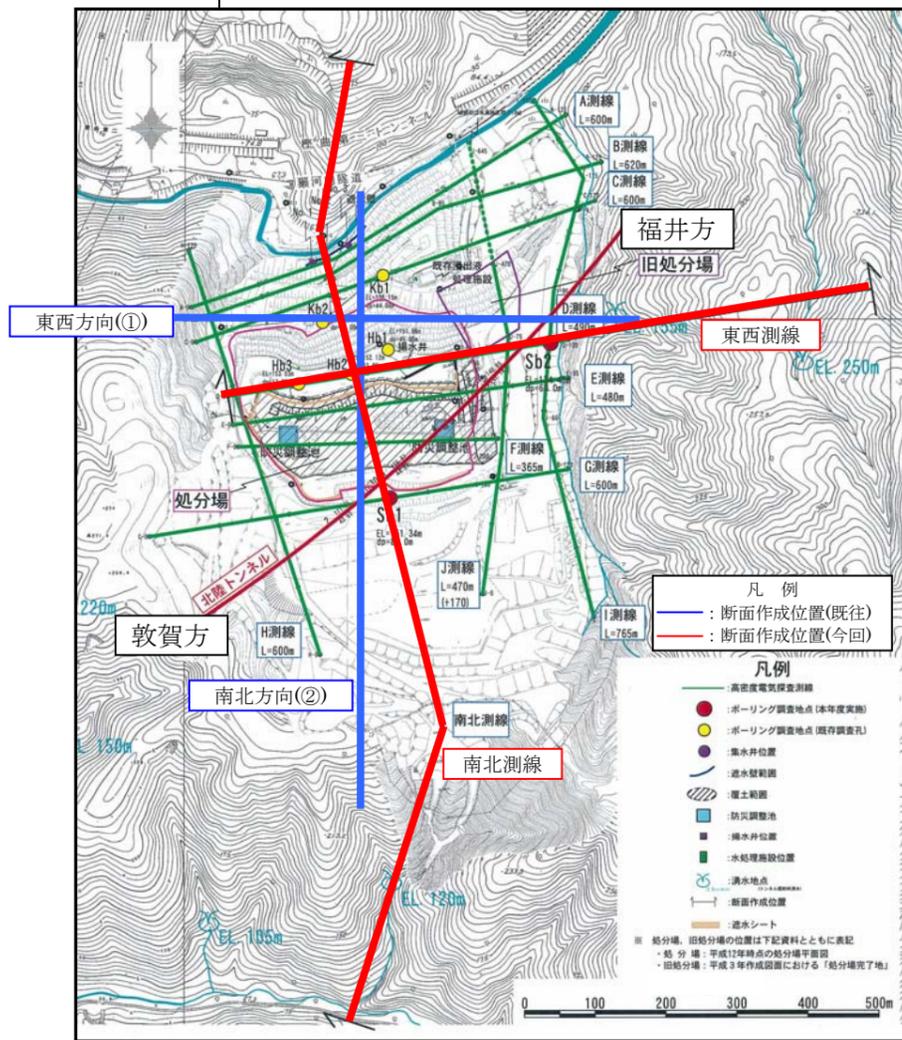


図-1.1.1 JR北陸トンネル位置図(S=1:4,000)

- 処分場位置：平成12年時点の処分場平面図より記載
- 旧処分場：平成4年時点の処分場完了地を表示

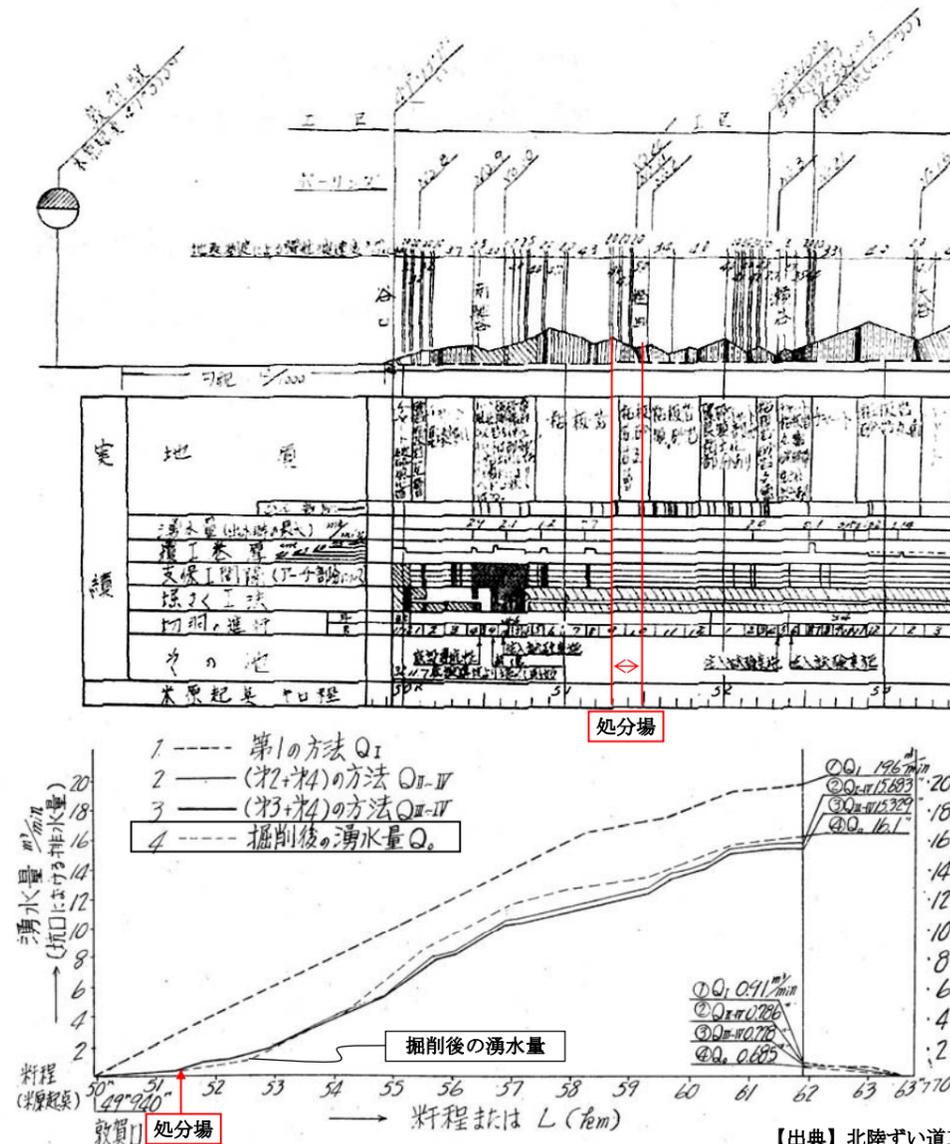


図-1.2.2 JR北陸トンネル沿い地質断面図および湧水量変化図